

転落事故を防ぎましょう①

子ども（14歳以下）が住居などの窓やベランダから転落する事故は、厚生労働省「人口動態調査」（平成22年から平成26年まで）では死亡事故が92件、消防庁の救急搬送データ（平成23年から平成28年まで）では救急搬送された事故が218件となっています。

年齢別では、、、

0～4歳が43件（46.7%）

5～9歳が19件（20.7%）

10～14歳が30件（32.6%）で、0～4歳のうち、特に3、4歳が多い事が分かります。

時期別では、、、

春（3月～5月）の17件（18.4%）

夏（6月～8月）の30件（32.6%）と、春から夏に多く見られます。

救急搬送データを年齢別に見ると、危険への認識が低い1～3歳の子どもの窓からの転落事故が多く、軽症が多いものの注意が必要です。

また転落事故は窓を開けたり、ベランダに出る機会が増えたりする今の時期に多く見られます。

高所からの転落は、生命に危険を及ぼす可能性が高く、十分な注意が必要です。

住居などの窓やベランダから子どもが転落する事故を防止するため、保護者の皆様は、主に以下の事に注意しましょう。

- ① 子どもの行動や居場所を把握するなど、見守りを行いましょう。
- ② 子どもの発達に応じ、日頃から転落を未然に防止する環境を整えましょう。
- ③ 窓やベランダの手すり、網戸等に劣化がないかを定期的に点検しましょう。